



祖父は「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会に参加しました。

8月に開催された講演会には1,300名を超える方々が参加されました。今年度は、茜が丘複合施設（Miraie）を会場として開催するなど8つの地区で、様々な講師にご講演をいただきました。



月間講演会

家族の絆
～日本とチベット!異文化を超えて～

チベット音楽家
バイマーヤンジン さん
8月18日(木) Miraie



講演の概要(一部省略)

私の名前は、「ハスの花にのった音楽の神様」という意味を持っています。この名前に導かれたように歌を歌い、音楽の仕事をしています。

平均標高4,000mを超える「世界の屋根」と呼ばれるチベット高原では、あまり農業に恵まれず、ヤクの放牧などをして暮らしている人が多いです。目立った産業が少なく、日本に比べ生活は決して豊かではありません。でも、私の小さい頃はそんな暮らしが当たり前だから、苦しいとも思いませんでした。私は、貧しい暮らしの中、家族の助けで音楽大学に進むことができました。チベット民族は、少数民族として、いじめられたり、差別をされたりすることが多いです。でも、私は、悲しい思いをした時には、大切な家族の顔を思い浮かべて、「負けないぞ」と強く思い、一生懸命に勉強にはげました。

そんな時に、私に中国語で話しかけてくれる人がいました。それが後に私の夫となる人でした。チベットのことをとてもよく理解してくれる、その心の広さに感動しました。

その後、日本に来ることになった私には、様々な文化の壁がありました。まず、言葉です。夫の家族とコミュニケーションをするのに、つたない片言からでしたが、日本語の勉強を一生懸命にして、少しずつ話すことができるようになりました。

ほかには、食べ物の違いです。日本で、お刺身が出てきた時には、なかなか食べられませんでした。チベットでは、お魚は習慣として食べられない地域が多いのです。長い年月をかけて、夫の家族と同じ物を食べ、ともに暮らし、笑い話することができるようになりました。これからも、かけがえない二つの国の家族との絆を大切にしていきたいと思います。

འོ་མ་དང་ལྷ་མོ། 太陽と月(チベット民謡)



太陽と月 <歌の大意>

ほら 草原に朝がやって来た	太陽が沈むと
太陽が輝いて	大草原がとても寂しくなる
万物に生命(いのち)を与える	でも大丈夫
太陽に感謝	神々(こうごう)しい お月様が
	我々の暗闇を照らしてくれる
	お月様に感謝



人権文化の花咲くまちづくり
～子どもたちにラブレターを書こう～

神戸親和女子大学客員教授
新保 真紀子 さん
8月8日(月) 大野隣保館

講演の概要(一部省略)

私は神戸親和女子大学で、保幼小教職員をめざす学生たちに、人権教育を中心とした科目を担当しています。これまで、私が関わってきた学生の中には、様々な背景を持った学生や社会的マイノリティの学生もいました。自分に自信が持てず、立ち止まってしまう学生たちもいますが、ありのままの自分を受け入れ、お互いを認め合える関係づくりに力をいれてきました。

学生だけでなく、一人ひとりの子どもたちの成長を考えたとき、自尊感情を育てることはとても大切なポイントです。自尊感情とは「ありのままの自分」を丸ごと認めることであり、生きるためにジャンプする土台となります。自尊感情は肯定的な人間関係の中で育つものです。家族や教師、友だち、地域の方々など、「意味ある他者」からの肯定的な関わりがとても大切です。

ぜひ、一度、子どもたちにラブレターを書いて、それぞれの思いを伝えてみてはどうでしょうか。



その他にも、6つの会場で講演会が開催されました。

開催日	場所	演題	講師
8月9日(火)	サンパル日野	住みなれた地域で暮らし続けるために ～みんなで考えましょう!認知症～	正峰会(大病院)地域包括ケア推進部 おかもと 岡本 さとみ さん
8月19日(金)	鹿野町公民館	ハートフルコンサート ～被災地を訪ねて～	シンガーソングライター いしだひろゆき 石田 裕之 さん
8月23日(火)	Miraie	ネットやスマホに潜むこわい罠 ～加害者にも被害者にもならないための大切なヒント～	(株)NIT情報技術推進ネットワーク のほらかいち 篠原 嘉一 さん
8月25日(木)	黒っこプラザ	生きててよかったやん	元身体障害者野球選手 おかはらとしひで 岡原 年秀 さん
8月26日(金)	センティア西脇	ふれあいコンサート	音楽バンド リラックス
8月29日(月)	芳田の里ふれあい館	幸せって何だっけ ～人にも自分にもあたらない社会をめざして～	一般財団法人 児童虐待防止機構 しまだたえこ 島田 妙子 さん

講演会での学びをこれからの生活に生かしていきたいと思いますね。

